

インディアナ日本語学校便り

学校教育目標 自ら学び、正しく行動する国際性豊かな児童生徒の育成



6 年生 授業の様子



6 年 1 組



6 年 2 組



「運動会で心に残ったこと」 6 年 1 組

織田 理史

運動会でいちばん心に残ったことは、100 メートル走です。理由は、リレーの選手が二人もいて、とてもきんちょうしていて、足に力が入らなかったからです。また、100 メートルを見てみると、気の遠くなるような長さだったので、とてもきんちょうしました。とてもきんちょうしていたけれど、その裏で胸からこみ上げてくる楽しい気持ちもありました。なぜなら、強い二人と本気で走れるとなると、心配を乗り越えて「絶対勝つてやろう」という強い気持ち、前向きになれたからです。走り出す直前には、落ち着きをもどせて、全力で走りきることができました。楽しかったです。いろんな人の目が合ったけれど、気にせずに走れました。またがんばりたいし、次は 1 位をねらいたいです。来年の運動会も、自分の力を精一ぱい出しきり、その団みんなと団結して、楽しく終わることのできる運動会にしたいです。



中西 奏人

ぼくが運動会で一番心に残った事は、つな引きです。前から4年生、5年生、6年生という順番で、つなの横に並んでつなを持ち、先生の「ピー」という笛の合図で、いっせいにつなを引き始めました。つなをぎゅつとにぎって、歯をくいしばって引きました。最初は相手も引いていたけど、終わりにつれて、相手の抵抗がなくなってきました。そのとき「ピー」という笛が鳴って、赤組の勝利が決まりました。勝ったしゅん間、みんなさけび声をあげて喜びました。2試合目も勝って、気分がよかったです。来年ぼくは中学生になるので、先生たちやボランティアのお父さん、お母さんにたよるだけでなく、中学生のぼくたちも、幼稚部や低学年のお世話ができるような運動会にしたいです。



佐藤 開治

運動会でいちばん心に残ったことは、お弁当の時間です。なぜかというと、家族といっしょにご飯を食べられるからです。お父さんは、僕達が寝ている間に帰ってくるので、なかなか一緒に食べられないので、楽しかったです。いちばんどきどきしたことは、選手宣誓でした。でも、練習していくとなんだかできる感じがしました。本番のとき、ぼくはぜったい失敗すると思いました。でも練習したおかげでかんぺきにできて、気が楽になりました。ぼくは、来年は中学生ですけど、今年みたいに勝ちたいと思います。



千代 悠貴

ぼくが運動会でいちばん心に残ったのは、「おしりでバンバン」です。なぜかというと、運動会前は、ぼくは、風船のわれる音を聞かなければいけないと心配で、気が重くなったからです。けれど実際にやってみたら、周りの色々な音で、風船の音はあまり気にしませんでした。ぼくは1回目失敗して、2回目にやっとわれました。そしてぼくは気が楽になりました。夢中でゴールまでドリブルしました。すると、ゴールテープを最初に切っていました。「おしりでバンバン」の1位はすごうれしかったです。なぜかというと、運動会で1位をとったことがなかったからです。とても満足しました。来年は、赤組・白組で味方とチームワークできる運動会にしたいです。そしてケガのない運動会にしたいです。



西山 心智

一番心に残ったことは、ようやく赤組が白組に勝ったことです。毎年負けていた赤組が自分の代でやっと勝てたと思うと、うれしいです。最初の方は、圧倒的に白と点差がついていて、「あー。これ負けるなー。」と思って見ていたら、つな引きや大玉ころがしのあたりから急に赤が本領発揮しだして、どんどん白に勝ちぬいていったので、おどろきと興ふんでいっぱいでした。特につな引きには自分が出たこともあって、勝った時はとてもうれしかったです。最初につなを引く時は、自分が「つな引き」という競技で相手をボロボロに負かしたり、ましてや勝ったことすらなかったのに、負ける気満々でいどみましたが、いざつなを引いてみると、最初はふんばるのに力を入れましたが、案外引いてみると軽くて、あっというまに勝ってしまいました、まさに「やってやったぞ！白組！」という感じでした。最後に『来年どんな運動会にしたいか』ですが、私は来年も「やってやったぞ！白組！」と言えるような運動会にしたいです。



「第39回目の運動会」 山田 海太

今年の運動会も楽しかったです。参加したイベントはぼくにとって新せんでした。なぜかという、4年生と5年生のときは、コロナのせいで運動会ができなかったからです。

自分が参加する競技は緊張しました。特に 100 メートル走の前はとても緊張しました。でも走った後、2位だったので達成感がありました。



次に参加したのは、「見よ高学年パワー」で綱引きです。4年生と5年生も一緒に参加するイベントでした。白組がロープの一方に、紅組がもう一方に行きました。綱引きが始まったとき、赤組が強く引っばって、白組の人はみんな赤組の方に引っばられてしまいました。空を見ようとしたけど、赤組の引きが強すぎて、顔を上にあげられなかったです。ピーっという合図で終わり、赤組が勝ったのが分かりました。2回戦目も同じことが起こり、また負けました。

次はリレーです。ぼくは参加しなかったけど、見ていてみんながんばっているのが分かりました。そして白組が勝ってうれしかったです。

その後、父と母とお弁当を食べました。お腹がすいていたので、すぐ食べ終わりました。

午後から参加したのは、「おしりでバンバン」です。このイベントはたくさんやることがあって、緊張しました。ぼくの番がきて、なわとびでスタートしました。なわとびをするとき、なわとびで走るのが大変でした。その後の風船をわるのも緊張しました。人がいすの後ろにいて、われなかったときは、ピンでわってくれます。「ぼくのおしりにささるかも」と思うと怖かったです。そしてバスケットボールでドリブルして走る間、ボールが高くとびすぎて、ボールを簡単にとることができませんでした。結果は4位でした。

全部の種目が終わり、結果が放送されました。赤組の勝ちでした。すこしがっかりしたけれど、来年もうちょっとがんばろうという気持ちになりました。

「みんなで走ったリレー」 バンクロフト クレア

運動会で一番思い出に残っているのは、リレーです。なぜかという、一人だけのかつやくではなく、みんなの力で勝つことができたからです。

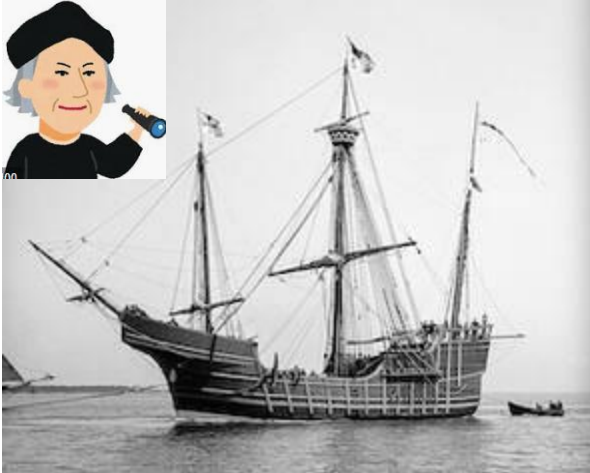
私がバトンを受け取ったとき、白組は3番目でした。先に走った人たちがとても早かったので、追いつくことができるかどうか、走り出す前は、ドキドキしました。走りながらアドレナリンがどんどん体の中で作られて、風を切って走りました。先生たち、友達、そしてお父さんやお母さんたちが、見ていることを忘れて走りました。

まず一人目を抜いた時、周りの音が大きくなった気がしました。二人目を抜くことができたとき、もっと早く走りたいと思いました。

アンカーの登梧君がバトンを受け取る準備をしているのが見えました。できるだけ早く登梧君にバトンを渡そうと思いました。登梧君がそのまま走り切りゴールして、白組が1位でした。

4年生と5年生では、コロナで運動会ができなかったのも、今年できて本当にうれしかったです。運動会の準備はとても大変だったと思いますが、先生や他の人たちががんばってくれたので、ありがとうございました。





サンタマリア号
クリストファー・コロンブス



1492年に、アメリカ大陸はコロンブスによって発見されました。もちろん本当のアメリカ大陸発見は、すでに3万年も前から住み着いていた先住民族せんじゅうみんぞくとなります。

アメリカ大陸の発見は偶然からのものでした。この頃のヨーロッパ(ポルトガル)の人たちはインドと貿易し、「コショウがほしい。」とに海を渡り、アフリカをまわってインドにたどり着いていました。

そのころ、当時スペインにいたコロンブスが「西回りで航海したら、ポルトガルより早くインドに着くのではないかと考えました。そして、コロンブスは大西洋を渡り、アメリカ大陸を発見したのです。このころはもう地球は丸いという概念がいねんがありました。ところが地球はコロンブスの想像こうかいよりはるかに大きかったのです。彼はここをインドだと思いこんで、無事インドにたどり着いたと思っていたのです。

なぜアメリカの先住民族はインディアンと呼ばれたのでしょうか。



そこで出会ったのが、アメリカの先住民族せんじゅうみんぞくです。彼らはコロンブスを歓迎し、手厚いもてなしをしました。コロンブスたちは、彼らをインディアン(インド人)と思いこんだわけです。

インディアンという名前の由来はヨーロッパの人たちの勘違いかんちがいからきています。そして長年その名前をそのまま使いました。そのため、「インディアンかんちがいの土地」という意味のインディアナ州の名がつけました。

(よって、「インディアンかんちがいの土地」という意味のインディアナ州の名も、もとはコロンブスの勘違いと関係しているわけです。)

(※その後、たどり着いたアメリゴという人が、この大陸を発見したということになり、「アメリカ大陸」という名前になりました。)

祝日の誕生^{たんじょう}

1792年に、アメリカに住むコロンブスを誇りに思うイタリア人の努力により、ニューヨークに記念碑が作られました。そして、1866年10月12日に、イタリア人は「アメリカ発見の日」とし



て、この日を「コロンブス・デー」と呼び、宴会、パレード、ダンスパーティなどのお祝いを開きました。このお祭りは、その後も毎年続くようになりました。そしてついに、1937年には、フランクリン・ルーズベルト大統領が10月12日を正式にコロンブス・デーと認定し、10月の第2月曜日が祝日となりました。

大統領の「先住民の日」認定で二重の記念日に

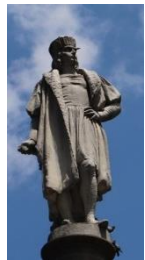
今は、インディアンという呼び方はしません。もともとアメリカにいた先住民族に対して失礼なので、彼らのことはネイティブアメリカン(Native American)と呼びます。



コロンブスが到着した当時、南北アメリカ大陸の各地にはおよそ1000万人のネイティブアメリカンが住んでいました。彼らにとって、自分たちの生活の場所や運命を変えられ、最終的には部族の絶滅寸前にまで追い込まれ、その文化を破壊されたのでした。

現在、州政府は「アメリカ先住民の日」を設け、その伝統を祝う日として、全米各地の学校では、アメリカ先住民(ネイティブアメリカン)に関する知識と、渡ってきたヨーロッパ人がアメリカ先住民におよぼした多大な痛みと苦しみについての知識を教えるようになりました。州によっては、この祝日に両方の名前を付けて、「コロンブス・デー／アメリカ先住民の日」と呼んでいるところもあります。

バイデン大統領も「先住民の日」と認定し、全米各地の先住民に対して「何百年にもわたり行われた暴力や強制的に追いはらったり、恐怖をあたえた政治を決して忘れてはならない。」としました。ホワイトハウスは、先住民のための部族大学に力を入れたり、先住民の教育・経済的な機会を広げるための大統領令を出しました。



ニューヨークのコロンブス像

コロンブスデー パレード

先住民の日を祝う ワシントン州

【お知らせ】 ①10月1日より、学校での保護者のマスク着用は自由となります。
②子どもに関するご相談・ご質問につきましては、通常通り、担任にご連絡ください。担任が対応いたします。

本日の
配布物
なし